

コルカタで左翼諸党の反戦デモ

Peoples Dispatch

May 14, 2025

<https://peoplesdispatch.org/2025/05/14/left-parties-lead-anti-war-protest-in-kolkata/>



Left parties lead anti-war protest in Kolkata: CPI(M)

5月13日火曜日、インド東部の西ベンガル州の州都であるコルカタ中心部の通りを、数千人の人々が行進し、戦争煽動と国内における宗教的対立の拡大を非難した。彼らは地域の平和と調和を訴えた。

月曜日にも、左派知識人、人権団体、学生団体によって組織された同様の集会が行われたが、与党の極右政党バラディヤ・ヤナタ党（BJP）の反動動員によ

って攻撃された。火曜日の集会は、右翼の攻撃に対抗し、より多くの参加者を集めた。

左翼政党はパキスタンとの戦争を拒否

横断幕やプラカードを持った人々が、反戦スローガンを叫び、平和のメッセージを書いた横断幕やポスターを持って、コルカタ中心部のエスプラネードからシールデまで行進した。

集会では、BJP がパキスタンに対する戦争の名の下に宗教的情熱を煽ろうとする試みを非難した。そして、インド政府に対し、すべての未解決の問題を解決するために、隣国との外交的関与を直ちに開始するよう促した。

インドとパキスタンは、1947 年にイギリスによる数世紀にわたる植民地支配が終わり、2 つの国家として誕生した。宗教的アイデンティティに基づくインドの分割は、100 万人以上が死亡する大規模な暴力につながった。それ以来、両国はいくつかの未解決の問題（なかでもカシミールが最大の懸案）を主張し、これまでに 3 つの大きな戦争と 1 つの小さな戦争を戦ってきた。

講演者たちはまた、テロを阻止するために軍事行動をとることの合理性にも疑問を呈した。これまで、テロを阻止するためにインド政府が行ってきた軍事侵攻はすべて失敗に終わっている。

インドは、パキスタンが歴史的にカシミール地方で分離主義運動を支援していると非難し、対抗手段として軍事攻撃に訴えてきた。BJP 政権はこれまで、パキスタンとの外交関係を求める声をはねつけ、まず「テロリズム」の問題に取り組むよう求めてきた。

この集会は、インド共産党（マルクス主義）、インド共産党（CPI）が共同で主催し、インド共産党（マルクス・レーニン主義）解放、前衛ブロック、インド社会主義統一センター（SUCI）が加わった。

左派政党の指導者数名が集会に参加し、平和運動との連帯を表明し、以下のことを要求した。

ナレンドラ・モディ率いる政府は、カシミール地方で罪のない市民に対する暴力を繰り返し止めなかった責任を問われる。

隣人との平和と社会の調和

「戦争を望む者は戦場に行かず、戦争に行く者は戦争を望まない」と、集会参加者が掲げた横断幕には書かれていた。パキスタンとの平和と社会の調和を求めるプラカードも掲げられた。

5月7日、カシミール地方のパハルガムで4月22日に発生し、26人（ほとんどが観光客）が武装した男たちに殺害された。インド政府は5月7日、パキスタン国内で複数の軍事攻撃を開始した、それにとどまらず、インド政府は事件の責任をパキスタンに求めるため、パキスタン国内への複数の軍事攻撃を開始した。

パキスタンはパハルガム襲撃事件への関与を否定した。しかしインドのたび重なる攻撃に対し、国境を越えて激しい砲撃を行い、無人機やミサイルで報復した。これにより、この地域の核保有国2カ国は、またしても戦争のような状況に陥った。

インドのメディアと右翼団体は、戦争への情熱を煽り続けた。反イスラム攻撃も急増し、暴徒は各地でイスラム教徒が経営する施設を襲撃した。暴徒は主にイスラム教徒を標的にし、彼らが「敵国」に味方していると非難した。

月曜日に左翼のコルカタでの集会を襲撃した人々も、平和活動家がパキスタンの味方で反国家的だと非難した。

火曜日の集会のスピーカーたちは、インド国民は戦争を望んでいないと宣言した。彼らは、インドのメディアが作り出した戦争熱狂とヒステリーを批判し、彼らの「フェイク・ニュースと戦争煽動」に終止符を打つよう呼びかけた。

集会の演説者たちは、国境両側で数十人が死亡し、数百人が負傷した3日間の緊迫した攻撃と反撃の後、5月10日の停戦発表を歓迎した。

また、攻撃により多数の民家が破壊されたについて抗議した。米国の停戦関与に批判、透明性を求める声も出た。

すべての発言者はまた、停戦達成にアメリカが関与したとされる問題について、モディ政権が沈黙していることに疑問を呈した。そして政府に状況を明らかにするよう求めた。

ドナルド・トランプ米大統領は停戦を最初に発表し、インドとパキスタンの停戦を仲介する重要な役割を果たしたと主張した。パキスタンとの調停にアメリカが関与することについては、インド国内ではより広いコンセンサスが得られている。

CPI (M) の M.A.ベイビー書記長は最近、モディに書簡を送り、状況を明らかにするよう求めた。彼は、記録を正すために臨時国会を開くという野党の要求を繰り返した。

【翻訳 鈴木頌】